

機関リポジトリ推進委員会 メタデータ検討タスクフォース 報告

2016/11/09

メタデータタスクフォース主査

(千葉大学附属図書館 学術コンテンツ課)

高橋菜奈子

目的および活動計画

目的：次期メタデータスキーマの策定

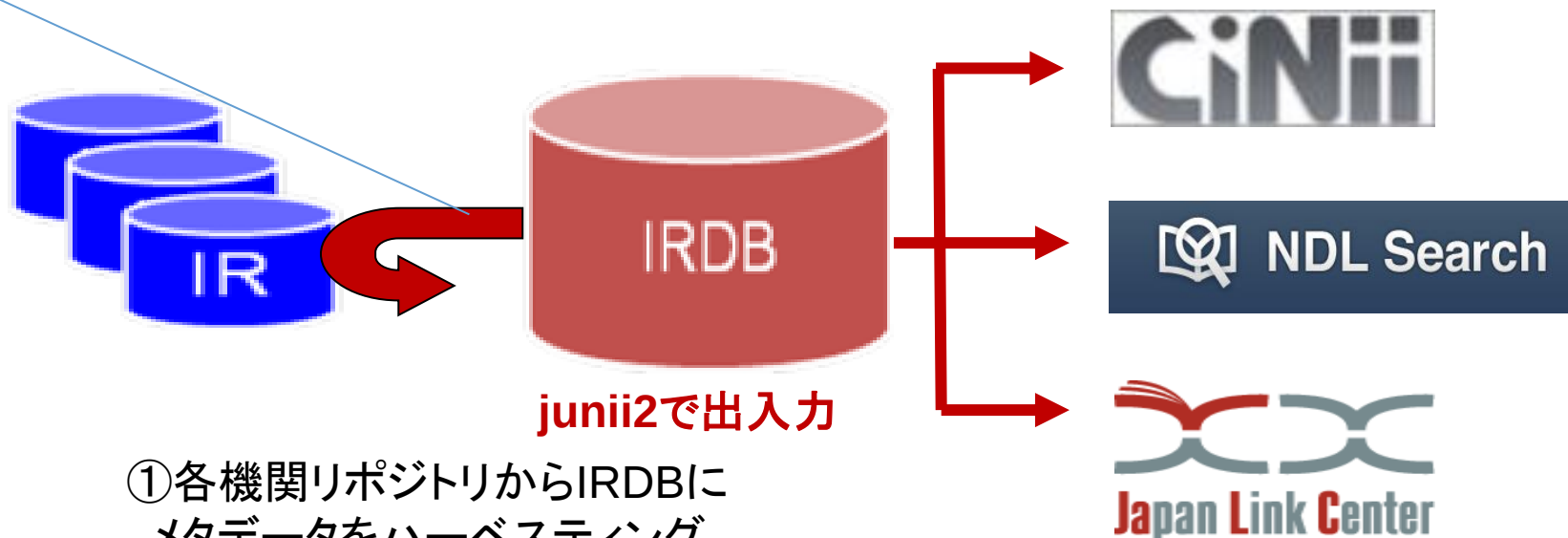
- 現在の機関リポジトリのメタデータスキーマであるjunii2の改訂を検討し、国際的な動向・技術にあわせた、新たなメタデータスキーマの設計を行う。
- ケーススタディを策定し、国内リポジトリへの適用・実装支援を行う。

junii2とは

junii2は機関リポジトリのメタデータを流通させるためのスキーマ

各機関リポジトリに入力したメタデータはjunii2に変換し、提供することで流通する

IRDBでは通信プロトコル"OAI-PMH"でjunii2を利用



<https://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/junii2.html>

②各種のサービスにデータを流通

なぜ、今、改訂するのか？

- オープンサイエンス・研究データ対応
 - オープンアクセス方針策定への対応
 - 識別子（論文ID, 著者ID等）の活用
 - 国際的なデータ流通の強化
- 抜本的な修正により、汎用性の拡大や相互運用性の向上を目指す。

活動計画

- junii2の次期スキーマ策定
 - 基本方針の提示
 - 次期スキーマ策定
 - 定義表・ガイドライン作成
 - 実装は来年度以降
- テストデータの作成
 - サンプルデータの作成
- 活用事例の提示
 - サービスのモックアップ作成

タスクフォースメンバー



主査: 高橋 菜奈子(千葉大学)

協力員: 佐々木 翼(北海道大学), 前田 朗(東京大学), 南山 泰之(国立極地研究所), 香川 朋子(お茶の水女子大学), 大園 隼彦(岡山大学), 林 豊(九州大学),

国立情報学研究所: 片岡 真, 田口 忠祐, 大向 一輝, 山地 一禎

現在までの成果

活動経過

- 2016年5月27日 第1回ミーティング
 - 今年度の活動計画の議論
- 2016年9月8～9日 集中検討会(第2回ミーティング)
 - 国際動向調査の報告
 - 全体方針にかかわる議論
 - 次期スキーマの要素・語彙の整理
 - 今後の進め方の確認
- 2016年10月21日 「junii2改訂の基本方針」
機関リポジトリ推進委員会で承認
- 2016年11月8日 第3回ミーティング
 - 次期スキーマについて詳細の検討
- 2016年11月8日 メタデータ☆ナイト
 - 現在の検討内容について、関係者から広く意見交換

「Junii2改訂の基本方針」の策定

- 平成28年第2回機関リポジトリ委員会で承認

- **junii2改訂の基本方針**

<http://id.nii.ac.jp/1280/00000210/>

- (1) オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理
- (2) 識別子の拡充にともなうメタデータ構造の修正
- (3) 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義
- (4) 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更
- (5) 今後のスケジュール

- **junii2改訂案の検討内容(概要)**

<http://id.nii.ac.jp/1280/00000211/>

- 現段階の検討中の内容を含む概要

(1)オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理

- 公的研究助成を受けた学術成果へのオープン化を促進し、論文だけでなく研究データも含めた公開と利用を志向するオープンサイエンスへの期待が高まっている。助成団体や大学としてのオープンアクセス方針を設定する機関も増加している。これを受けて、公的研究助成を中心にオープン化の達成度を把握するための要素と、研究データ等の対象コンテンツの拡大に対応するための要素の追加・整理を行う。
 - ①研究データの要素の追加
 - ②寄与者の語彙の例示
 - ③資源タイプの整理
 - ④助成情報の要素の追加
 - ⑤アクセスレベルの記述

(2) 識別子の拡充にともなうメタデータ構造の修正

- 情報をより正確に識別・同定するためには、ある実体を他の実体と曖昧さなく区別するための識別子が付与されていることが重要である。論文・研究者・機関の情報を正確に扱うために、現在のjunii2のように情報をフラットに記述するのではなく、それぞれの情報をグルーピング(階層化)し、各実体に対して明確に識別子を付与できるようにする。
 - ①論文識別子の整理。
 - ②研究者識別子の導入
 - ③属性

(3) 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義

- 新スキーマにおいても、日本独自の要素名と語彙を採択するが、学術情報の流通性を高め、国際的なデータ連携に対応するために、海外の主要な連携先を参考にしたスキーマを定義する。かつ、OpenAIRE等の主要連携先とのマッピングを提示する。
 - ①定義の明確化
 - ②国際的な相互運用性の確保
 - ③当面のデータ連携先の想定

(4) 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更

- 各機関リポジトリでは、データ作成・提供の方式の変更が必要となる。システム改修等への影響を考慮し、junii2との変更点を提示する。また、IRDBでの通信プロトコルはOAI-PMHを維持することで、影響を最小限に抑える。なお、当面は、junii2でのハーベスティングも可能とする。
 - ①junii2とのマッピング
 - ②言語コードのマッピング
 - ③資源タイプのマッピング
 - ④使用レベル(Usage)の見直し
 - ⑤OAI-PMH維持

国際的なデータ流通の強化に向けて

- 国際動向の調査
 - OpenAIRE、RIOXX、DataCite、CERIFほか
- 資源タイプはCOARの語彙を想定
 - COARのResource Type Vocabularyは2016年10月に公開
- OpenAIREとの相互運用性
 - IRDBからOpenAIREへのデータ提供（2016年8月～）
 - 今回の改訂でよりよいデータ連携をさらに展開

今後の予定

成果物の予定

- 改訂の基本方針(サマリー)
- 定義ドキュメント
- XMLスキーマ定義
- ガイドライン
- 主要スキーマとのマッピング用ドキュメント
 - junii2
 - CiNii Articles(→API提供)
 - DC-NDL(→NDL-Search、博士論文データ納本)
 - JaLC(DOI登録→CrossRef, DataCite)
 - OpenAIRE
- 国際動向調査報告

今後の予定

平成28年度

- スキーマ案・ガイドライン案の提示・意見募集
⇒機関リポジトリ推進委員会でのjunii2改訂案の確定
- 国際動向のまとめ
- サンプルデータの作成

平成29年度以降

- IRDBへの実装⇒新スキーマでのハーベスティングの開始
 - junii2でのハーベスティング終了時期は、新スキーマの普及状況を勘案して決定
- CiNiiでの活用例の検討

皆様からのご意見を募集しています

連絡先 : irtf_metadata@nii.ac.jp